



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 258

2018/06/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

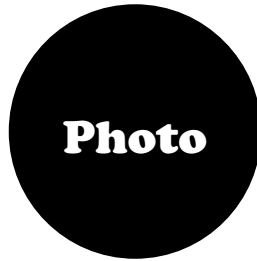
GREEN COLUMN

01. 太古の化石トンボ

02. 馬と美幌



今月の一枚



「水田に春が来た」

表紙写真・文／鬼丸和幸

春本番となり、美禽地区の水田にも、網走川から水が引かれました。水がたまり、点々と顔を出している稲苗の上を、チョウがゆらゆら飛んでいる姿を見ると、どこかホッとした気分になります。かつて美幌町内では、都橋、美禽、瑞治地区などを中心に、広大な水田が広がっていましたが、現在は美禽地区の一部でのみ見られるにすぎなくなりました。

Event. 今月のイベント

特別展「大美博展」 ～7月1日（日）

博物館講座（自然編）「太古の化石トンボを見に行こう」 6月2日（土）

プチ工房「切り絵の生きものを楽しもう」 6月13日（水）, 15日（金）

Information. 参加者募集

プチ工房 「切り絵の生きものを楽しもう」

● 6/13 (水), 15 (金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（1点30円） ●鬼丸和幸（美幌博物館） ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座（自然編）「イワナ学入門」

【観察会】 ● 7/8 (日) 9:00 - 12:00 ●美幌町古梅（集合解散は博物館） ●保険料（100円）、野外で活動できる服装（長袖、長ズボン、帽子を着用）、軍手、雨具、虫除け、胴長（持っている方のみ） ●森田健太郎氏（国立研究開発法人水産研究・教育機構） ●美幌博物館へ電話申込み（6/1 - 7/4）。キャンセルは7/4まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員25名で締切。小雨決行。荒天時は、室内学習を実施します。

今月の休館日

4日, 11日
18日, 25日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

太古の 化石トンボ

写真・文／鬼丸和幸



トンボと言えば、みなさんが良くご存じの昆虫ではないでしょうか。

トンボの祖先は、今から約3億年前、巨大なシダ植物が繁茂していた古生代～中生代と呼ばれる時代にいたと言われています。このトンボの祖先は、ハネを広げると80cm近くもある巨大な体をしていました。時代を経るごとに、トンボの仲間は、体の構造が変化して現在に至っています。

そんな中で、太古のトンボ化石に形態がよく似ているトンボがいます。ムカシトンボです。ムカシトンボは、体長5cmほどの中型のトンボで、溪流に生息しています。世界中でも日本、中国東北部、ヒマラヤ地域の3地域でしか見られません。美幌町内では、これまでの調査により、美幌川上流や栄森川上流地域など4カ所で見つかっています。

ムカシトンボは、もともと寒冷地

に適応したトンボで、一説では今から約2万年前の最終氷期まで、南アジアや東アジアに広く分布していましたが、その後の地球温暖化により気温が上昇すると、日本の山地や中国東北部、ヒマラヤ山地といった寒冷な地域に追われ、隔離されたと考えられています。「成虫になるまで5～7年かかる」「幼虫は、水温が低くないと生きていけない」ことなどから、環境変化の少ない豊かな溪流環境でしか生きていくことができません。

太古、そして今の自然環境の姿を、そのまま留めているムカシトンボ…魅力が尽きないトンボです。

馬と美幌

写真・文／八重柏誠



ここに
ある 1 枚の写真は、昭和の初期に青山南地区付近にあった競馬場での様子を撮影したものです。美幌では明治時代から草競馬が行われていました。娯楽が少なかった時代だったことから、お祭り騒ぎのような賑やかさだったと記録に残っています。この写真からも、大勢の人々が集まって、賑わっている様子が伝わってきますね。

以前、町外の方と一緒に仕事をした際に、「昔の美幌は馬喰^{ばくろウ}の町のイメージがありますね。」と言われたことがあります。馬喰とは、馬や牛の売買や仲介をする商人を指しています。今の美幌では、ほとんど見かけない馬ですが、昭和 30 年頃には約 3,000 頭もの馬が飼育されていました。当時の馬は農耕や運搬などに欠かせない貴重な労働力でした。昭和初期の美幌市街地の地図を見ると競馬場の他に、馬具

屋や蹄鉄工場など馬と関わりのある店が見られます。競馬場では、常に競馬が開催されていたわけではありません。年に 1 度、主に秋祭りの余興として行われていたようです。年 1 回のための競馬場なのかと思われてしまいますが、ここでは馬の品評会や馬市が盛んに行われ、種馬所も併設されていました。今では想像できないほどに、美幌の町の中では馬との関わりを持った大勢の人々が、生活していたことがわかります。

昭和 30 年代以降、トラックやトラクターが一般に普及していくとともに、馬の数も減少して行きました。人々の生活の中から馬の存在が消え、現在では、収蔵庫に残るおびただしい量の蹄鉄だけが、往時の馬の存在を示しているようにも感じられます。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/bunya/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき

.....



先日、子ども達から遊園地に連れて行ってほしいとせがまれ、連れていくことにしました。休みの都合でオープン初日の遊園地、とても混雑しています。子ども達から一言、「ここディズニーランド?」。たしかに混雑だけはディズニーランド級だったかもしれません。(八重柏)